

令和 3 年度 校内研究

【本校の校内研究の目的】

- 1 本校の教育課程の改善充実を目指す。
- 2 教職員の専門性の向上を図る。
- 3 教職員の協働意識を高め、チーム学校力を向上させる。
- 4 研究の成果を日常実践に活かすと共に、研究成果を積み重ね、指導・支援におけるHKSスタンダードの確立を目指す。

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

～1年次副題：主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

2年次副題：体験的な学習・生活に結びついた学習の充実と指導技術の向上に向けて

3年次副題：研究のまとめとHKS授業デザインガイドブックの作成

2 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基礎・基本を押さえ、体験的な学習・生活に結びついた学習の実現を目指し、実践を通してその在り方を考察、共通理解をしてまとめることで、本校における「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図ることができるであろう。

3 テーマ設定の理由

今回の学習指導要領で示された5つの改訂基本方針に対して、本校では令和元年度に「カリキュラム・マネジメント」を、令和2年度には「学習評価の在り方」をテーマとするなかで「育成を目指す資質・能力の明確化」について研究してきた。

これにより本校では、教育課程の基本となる計画と各教科等の年間指導計画、さらにそれらとの関連させた単元・題材指導計画による実践と評価というPDCAサイクルの構造を確認、共通理解した。

その骨組みに肉付けをしていく作業が学習指導要領改訂の基本方針の一つでもある「主体的・対話的で深い学び」による授業改善である。

学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に必要な基礎基本を押さえ、「これからの時代に求められる資質・能力」を身につけることのできる学習の在り方を再認識するとともに、知的障害教育が重きを置いてきた「体験的な学習」「生活に結びついた学習」の視点を合わせて考察することにより、本校における学習活動のあるべき姿についての理解を深め、日常の実践を充実させていくことができることをねらいとして本テーマを設定した。

4 今年度の研究の視点（研究仮説を検証するために取り組む内容の具体化）

- (1) 学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」と、知的障害教育における「体験的な学習」「生活に結びついた学習」の視点の基礎基本を確認する。
- (2) 基礎基本を踏まえた授業研究を実施し、学習改善の在り方をまとめる。

5 過年度研究と今年度以降の研究内容

内容 年度		カリキュラム・マネジメントの確立		「主体的・対話 的で深い学びの 実現」に向けた 授業改善	教科等横断的 な視点に立っ た資質・能力 の育成
		教育課程の基本 となる計画の確 認	単元・題材の計画 と学習評価		
第 1 期	R1年度	◎	○	△	△
	R2 〃	○	◎	△	△
第 2 期	R3 〃	○	○	◎	△
	R4 〃	△	△	◎	△
	R5 〃	△	△	◎	△
第3期 R6以降		研究主題(仮)知識基盤社会における知的障害教育の生きる力、働く力の再考			

◎：重点となる内容 ○：重点と合わせて取り組む内容

△：今後に向け試行、準備すべき内容・テーマに沿って必要に応じて取り組む内容。

6 推進計画

取組	実施日	取組内容	備考
校内研究 1	4/23 金	○ 1 次案提案 ○ アンケート 1 ・進め方への意見、質問 ○ グループ希望集約	全体研究 25 分
校内研究 2	5/27 木	○ 研究計画案提案 ○ グループ編成 ○ 学習指導要領解説の内容確認 ・「主体的・対話的…な視点」につい ての学習指導要領の趣旨に照らし た授業の構想 ○ 今後の進め方について ○ アンケート 2 ・授業研究計画の視点への意見・質問 ・今後の研究の進め方への意見・質問	全体研究 50 分
個人研究	※校内研究 3 までの期 間	○ 研究授業とする単元・題材の予定 ○ 「主体的・対話的…な視点」につい ての学習指導要領の趣旨に照らし た授業の構想	個人研究 1～5 時間
校内研究 3	7/26 木	○ 授業研究の取組について ・研究グループについて ・授業研究計画の視点 ・単元・題材指導計画様式 ○ 校内研究会授業者選出	全体研究 20 分 グループ研究 30 分
個人研究	※校内研究 4 までの期 間	○ 研究授業に向けての取組 ・単元・題材指導計画作成 ・学習指導案作成	個人研究 5～10 時間
校内研究 4	8/23 月	○ 研究アドバイザーによる助言 ○ グループによる研究授業指導案検討	全体研究 50 分 グループ研究 30 分
個人研究 研究授業	9 月～10 月 ※期間内の 設定が難し い場合はこ の前後で	○ 各自の研究授業の実施 ・教材研究 ○ 研究授業の振り返り	個人研究 5～10 時間 研究授業 50 分 授業の参観 150 分(3 回)

取組	実施日	取組内容	備考
校内研究 5	11/25 木	○研究協議 ・研究授業の成果と課題 ・校内研究会指導案検討	グループ研究 50 分
校内研究会	12/1 水	○研究授業・研究協議	全体研究 7 時間
地域連携研修会	1/12 水	○講演 ※主体的・対話的…な視点をテーマに	全体研究 3 時間
校内研究 6	2/24 木	○今年度研究のまとめ ・今年度研究の成果と課題 ・次年度の研究について	全体研究 50 分
取組時間の目安の合計(最長時間)			約 33 時間

6 今年度研究推進の方針・方法

(1) 日常実践を通じた研究を推進し、成果を日常の学習指導に生かす。

ア 文部科学省から示された資料を中心に研究を進める。

・学習指導要領および同解説

・高等部の指導の手引き」(平成 8 年、文部省)

イ 個人研究、グループ研究、全体研究に必要な時間の目安を示し、計画的に取り組めるようにする。※グループ編成については別途提案

ウ 個々の日常実践に位置づけ、実践、交流、協議等により研究を進める。

エ 今後の日常実践に実用的であることを大切にする。

(2) 授業研究に全員で取り組む

ア 期間を設けて研究授業を設定し発表する。

イ 研究成果のまとめを校内研究会として研究授業を実施する。

(3) 研究広報の活用

研究推進のための説明の補足、協議で出された意見や討議内容の交流など、限られた時間のなかでの研究の充実を図る。

(4) 公開研究会

ア 1 年次、2 年次は校内研究会とする。

イ 3 年次研究のまとめを公開研究会として発表する。(令和 5 年度予定)

(5) 研究紀要作成

1 年毎に紀要としてまとめ、3 年次に 3 年次及び 3 カ年の研究成果を研究紀要としてまとめる。

(6)その他

研究アドバイザーへの協力を依頼する。

7 3 カ年の取組一覧

年度	研究会	研修会(講演会)	研究紀要の内容
R3	× 校内研究会(12 月)	○ 地域連携研修(講演会)	△ R3 年度の研究の概要と まとめ
R4	× 校内研究会(時期未定)	○ 実施予定(講演会)	△ R4 年度の研究の概要と まとめ
R5	○ 公開研究会(時期未定) ※一般参加者あり	○or△ 実施予定(講演会) ※公開研究会で設定?	○ R5 年度の概要とまとめ 3 カ年の研究のまとめ

令和3年度

北海道函館高等支援

校内研究のまとめ

令和3年度 研究のまとめの内容

- 1 今年度研究計画の概要
 - (1)研究テーマ
 - (2)研究仮説
 - (3)まとめの内容、研究の視点
 - (4)今年度の研究の視点
- 2 今年度研究の経過
- 3 今年度研究のまとめ
 - (1) 研究授業のアンケート集約より
 - (2) 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解
 - (3) 次年度取組案

(1) 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

1年次副題：主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

2年次副題：体験的な学習・生活に結びついた学習の充実と指導技術の向上に向けて

3年次副題：研究のまとめとHKS授業デザインガイドブックの作成

（２）研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基礎・基本を押さえ、体験的な学習・生活に結びついた学習の実現を目指し、実践を通してその在り方を考察、共通理解をしてまとめることで、本校における「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図ることができるであろう。

（３） テーマ設定の理由

今回の学習指導要領で示された５つの改訂基本方針に対して、本校では令和元年度に「カリキュラム・マネジメント」を、令和２年度には「学習評価の在り方」をテーマとするなかで「育成を目指す資質・能力の明確化」について研究してきた。

これにより本校では、教育課程の基本となる計画と各教科等の年間指導計画、さらにそれらとの関連させた単元・題材指導計画による実践と評価というPDCAサイクルの構造を確認、共通理解した。

その骨組みに肉付けをしていく作業が学習指導要領改訂の基本方針の一つでもある「主体的・対話的で深い学び」による授業改善である。

学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に必要な基礎基本を押さえ、「これからの時代に求められる資質・能力」を身につけることのできる学習の在り方を再認識するとともに、知的障害教育が重きを置いてきた「体験的な学習」「生活に結びついた学習」の視点を合わせて考察することにより、本校における学習活動のあるべき姿についての理解を深め、日常の実践を充実させていくことができることをねらいとして本テーマを設定した。

(4) 今年度の研究の視点

(研究仮説を検証するために取り組む内容の具体化)

(1) 学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」と、知的障害教育における「体験的な学習」「生活に結びついた学習」の視点の基礎基本を確認する。

(2) 基礎基本を踏まえた授業研究を実施し、学習改善の在り方をまとめる。

2 今年度研究の経過

取組	実施日	取組内容
校内研究 1	4/23金	○1次案提案 ○グループ希望集約
校内研究 2	5/27木	○令和3年度 北海道函館高等支援学校 校内研究計画(案)について ○「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項について
校内研究 3	7/26木	○「研究授業の視点」とグループ研究の進め方 ○「単元・題材指導計画」、「略案」、「計画とまとめ」様式
個人研究		○研究授業に向けての取組
校内研究 4	8/23月	○研究アドバイザーによる基調提言 ・助言者 北海道教育大学函館校 教授 北村博幸 様 ・提言 「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について」 ○グループによる研究授業指導案検討
個人研究 研究授業	9月～10月	○各自の研究授業の実施 ○研究授業の振り返り
校内研究 5	11/25木	○研究協議 ・各研究授業の成果と課題 ・校内研究会指導案検討
校内研究会	12/1水	○研究授業・研究協議 ・助言者：北海道教育大学函館校 教授 北村博幸 様 ・授業者：松本真紀江先生(英語) 高橋直樹先生(音楽) 渡部一博先生(理科)
地域連携研 修会	1/12水	○本校の実践発表「地域とつながる4学科協働によるカフェの実践」 ・発表者 北海道函館高等支援学校 教諭 岡 山 努 ○講演「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」 ・講師：北海道教育大学函館校 教授 北 村 博 幸 氏
校内研究 6	2/22火	○今年度研究のまとめ

3 今年度研究のまとめ

(1) 研究授業のアンケート集約より

(2) 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

①本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方

②本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

ア 「わかる・できる・いきる授業のデザイン」

イ 「わかる・できる・いきる授業のデザイン」の構造

(3) 次年度取組案

(1) 研究授業アンケート集約より

(「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についてのアンケート)

各先生が取り組んだ研究授業を通して『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の基本的事項』(以下：基本的な事項)の内容に対する成果や課題をまとめていただきました。

以下は、その中から、授業改善のポイントやキーワードとなると考えられる事項を集約したものです。

これをもとに、「主体的・対話的で深い学び」についての共通理解を深めたいと思います。

なお、「基本的な事項」には、内容の重複した箇所がありましたので、まとめるに当たり項立てを整理しました。

また、いただいた御意見につきましては、同等の内容の場合は1つにまとめたり、内容を簡略化するなどしておりますので御了承ください。

※アンケート集約の原版は別添の資料をご覧ください。

アンケート集約の項立て

A 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

(1)①「主体的な学び」の視点について

②「対話的な学び」の視点について

③「深い学び」の視点について

(2) 3つの柱を偏りなく実現することについて

(3) 内容や時間のまとまりの構成について

(4) 「見方・考え方」と過程を重視した学習の充実について

(5) 「思考・判断・表現」の過程について

2 言語環境の整備と言語活動の充実について

3 コンピュータ等や教材・教具の活用について

4 見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする学習活動について

5 体験活動について

6 学校図書館、地域の施設の利活用について

B 1 知的障害の学習上の特性等

2 知的障害ある生徒の教育的対応の基本

A 1 (1) ① 「主体的な学び」の視点について

【主体的な学びを引き出す学習内容】

- 興味関心がある ○わかる、できる ○生活との関連、生活に生かせる
- 個の目的、将来への意識と結びつく ○自分の課題として理解

(1)「主体的な学び」が実現できているかという視点。
・自己のキャリア形成の方向性と関連付けている
・見通しをもって粘り強く取り組んでいる
・自己の学習活動を振り返って次につなげている

【主体的な学びを引き出す学習場面】

- 見通しと振り返り ・具体的な見通し ・単元のオリエンテーション ・毎回の振り返り ・的確な自己評価
- 自己決定、自己選択

【主体的な学びを引き出す支援】

- 授業の展開 ・繰り返し ・知識技能を生かす場面 ・授業のパターン化 ・次第に支援を減らし自立へ向かう
- 参考例 ○苦手意識の軽減 ○講師、プロフェッショナル ○外部者との対話・接客、受注での感想

【主体的な学びを引き出す教師の姿勢や配慮】

- 実態把握 ○待つこと ○時間の保障 ○探究に向かう発問 ○意見の言える環境づくり
- 集団構成、リーダー ○失敗を生せる

【主体的な学びの課題等】

- 繰り返して飽きる ●やらされている感 ●意欲がない ●主体的な学びが対話的、深い学びにつながる
- 主体的な取り組みの保障が学習計画に影響(時間配分) ●主体性が引き出せない

A 1(1)②「対話的な学び」の視点について

【対話的な学びを引き出す学習内容】

○関心意欲 ○意義、必要性がある

(2)「対話的な学び」が実現できているかという視点

- ・子供同士が協働している
- ・教職員や地域の人との対話している
- ・先哲の考え方を手掛かりに考え自己の考えを広げ深めている

【対話的な学びを引き出す学習場面】

○話し合い活動 ・協議 ・意見発表 ・交流 ・友達へアドバイス ○協働

○対話の対象 ・地域、外部 ・自然、文化、スポーツ

○自分との対話 ・意見、感想 ・計画、アイデア ・自己評価

【対話的な学びを引き出す手立て】

○集団構成 ・グループ、ペア ・異学年 ・役割 ○話し合いのルールやマナーの理解

○話し合い以外の対話の工夫 ・ワークシート ・図書館 ・講演、講師による指導 ・クラウド上で意見交流

【対話的な学びを引き出す教師の姿勢や配慮】

○否定しない ○教師の言葉遣い ○気付き、つぶやきを大切にする ○普段のコミュニケーション

○生徒の関係性の理解 ○STの役割 ○ファシリテーションスキル ○どの生徒も話せる環境作り

【対話的な学びの課題等】

●他者評価で自信をなくさないか ●生徒がやらされている感 ●意見の共有ができない(時間、手立て)

●意見が出ない ●相手の気持ちになれない ●まとめられない

●生徒により積極性に参加できる、できないが分かれる

A 1(1)③「深い学び」の視点について

【深い学びを引き出す学習内容】

- わくわくなどの期待感をもたせる
- 日常生活で使うものを題材に
- 必要性
- 関心・意欲
- わかる、できる + α

【深い学びを引き出す学習場面】

- 体験
- 感性を働かせる
- 知識・技能を活用する
- 事前事後学習
- 活動の録音や録画による振り返り
- ステップアップ
- 対話
- 問題解決

【深い学びを引き出す手立て】

- 深められるタイミング
- 繰り返し
- 振り返りが抽象的にならない
- 映像や体験など文字以外の資料、情報
- 他者との対話、共有
- 外部講師

【深い学びを教師の姿勢や配慮】

- 時間をかける
- 丁寧に取り組む
- 時間配分・授業の柔軟性、学習予定の変更
- アドバイス
- ・気づきを促す支援

(3)「深い学び」が実現できているかという視点

- ・「見方・考え方」を働かせる
- ・知識を相互に関連付けてより深く理解している
- ・情報を精査して考えを形成している
- ・問題を見いだして解決策を考えている
- ・思いや考えを基に創造している

【深い学びの課題等】

- 取り組みやすい題材だと深まらない。
- 興味関心意欲がない
- 分量が多すぎる
- 深い学びは難しい

A(2) 3つの柱を偏りなく実現することについて

- 概ね取り組めている ○3つの柱をバランス良く設定するよう意識している
- 評価を授業改善につなげられている
- 3つの柱を意識し、学習内容や指導方法の改善ができた。○計画的な観察、記録の実施
- 単元毎に振り返りを行った ○自校評価を次の個人目標に生かすことができている

●適切な評価についての課題

- ・評価のイメージがもてない ・毎時間でできていない ・知識、技能に偏る ・適切か判断できない
- ・自己評価が時間の余裕がない ・シラバスの改善までには至っていない

A(3) 内容や時間のまとまりの構成について

- 3つの学びの構成を意識した ○繰り返し行い定着してきた

- 3つの学びを効果的に構成するイメージがわからない ●できているか自信がない
- 対話的な学びができなかった ●時間足りない、深められない ●深い学びができなかった
- 単元の内容により偏る ●考える時間が無い ●1時間計画の授業での設定が難しい
- 主体的な学びは計画しているつもりだが、対話的、深い学びはできていない

A(4) 「見方・考え方」と過程を重視した学習の充実について

【「見方・考え方」を働かせるための授業内容】

- 将来の社会的自立を念頭にした
- 生徒の経験を生かす
- 自分の知識になるように
- 自分に置き換えて考える
- 生徒が自分で考え実践できるようになってきている
- 役割を明確にし繰り返す
- ペアで共通の目的に向かって解決するように授業を計画している
- 知識を実感できるように
- 成功体験を増やす
- 習慣
- 何を学ぶか、どのように学ぶかを工夫
- 自己理解から卒後に必要な力を理解
- 意義を理解させる
- 卒後につながることを意識させる
- 日常生活に結びつける
- 感受性を深め人生を豊かにする
- さらなる興味関心、深い学びにつながる

【「見方・考え方」を働かせるための授業の組み立て】

- 基礎基本から課題解決に向け試行錯誤することを大切にしている
- イメージと結びつけたりや体験したりするなかで活用させるようにした
- 授業の連続性を重視して計画した
- 繰り返しで身につける
- 素地を3年間で作る
- 3年間の学びの系統
- 生徒の自己目標～自己評価サイクルができてきた

3「見方・考え方」

- ・社会の中で生きて働くものとして習得
- ・思考力、判断力、表現力等を豊かなものとする
- ・社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりする学びの過程の中でより質の高い深い学びにつなげることが重要

【「見方・考え方」の課題】

- 経験不足、様々な体験、経験が大切
- 実践力になっていない
- 知識が断片化しないように
- すぐ力を付けたり活用できたりするものではなく、社会で経験をする中で深められる
- 知識偏重傾向にある
- こちらが「見方・考え方」を意識しておくべき
- 「見方・考え方」押さえや具体化を共有したい
- 授業での学習を日常生活に結びつけるのはとても難しいと感じる
- 今の生徒の声を聞く、生徒理解のヒント
- 具体的なイメージが持てていない
- 自己研鑽が必要

A(5)「思考・判断・表現」の過程について

【「思考・判断・表現」の過程について】

- 自分に置き換えて相手のことを考える力をつける
- ロールプレイで考える
- 正しい知識と情報
- 基礎基本があつての思考・判断・表現
- 理由を説明
- 自分の強み(得意)弱み(苦手)を意識し選択させる
- 自己決定に責任をもたせる
- 授業の組み立て 基礎・基本→発展して思考・判断・表現
- 情報、材料を用意し場面設定をする。
- 考えを伝え合う場面を設定
- 調べた内容をまとめる作業
- 問題を見いだす部分が重要

【「思考・判断・表現」の過程についての課題】

- 判断できるようになるまで時間がかかる
- 苦手を避けたりやりたいことだけやろうとする
- 中途半端で何を学んだかわからなくなることも…

4「思考・判断・表現」の過程

- (1)「問題発見・解決につなげていく過程
- (2)考えを形成したりしていく過程
- (3)思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

A 2 言語環境の整備と言語活動の充実について

- 社会生活に対応できる言葉遣い ○学習の基礎基本となる言葉の理解
- 教師の姿勢や態度
 - ・簡潔な説明 ・丁寧語 ・わかりやすい ・自分で答えを導き出せるような発問の工夫
 - ・言語のみによらない説明 ・ルビの振り方 ・理解できる専門用語 ・発言を否定しない
- 教師の姿勢や態度 ・説明が長い ・言語のみで説明 ・座学になりがち

A 3 コンピュータ等や教材・教具の活用について

- iPad ・情報収集、記録、振り返りに活用 ・どの授業でも活用が進められている
- クラウドの利用検討 ○多様なアプリケーション、学習ソフトの利用 ○木材加工でPC利用 ○新聞を活用している
- 何を調べるのか分からなくなる、調べられない ●遊び始める ●教師の技術不足 ●新聞が活用できていない

A 4 見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする学習活動について

- 見通しをもたせる ・導入で説明、板書、PP ・作業前ミーティング ・学習の意義を理解させる ・目標内容の自己決定
- ・授業の流れのパターン化
- 振り返り ・振り返りシート、作業日誌 ・確認テスト ・振り返りを数量やグラフ化の検討中 ・ICT、ビデオ活用
- ・十分な時間を設定できない ・自己評価できない

A 5 体験活動について

- 教科等の特質に応じた体験活動は「主体的…学び」につながっている。 ○外部講師、地域、受注
- 興味関心 ○カフェ ○生活との関わりを考えると結びつく体験が ○言葉で考える以外の感覚を使う工夫

A 6 学校図書館、地域の施設の利活用について

- 図書館は単元により活用している ○この地域は施設が充実 ○町会館清掃 ○地域の施設利用を今後検討
- 学校図書館は活動できていない ●読書習慣をつける必要

B 1 知的障害の学習上の特性等

【特性への対応】

- 実際の生活場面に即した指導内容の精選
- 生徒の実態に応じた言葉掛け
- 環境条件の中には教師との信頼関係も
- 上手くできた支援が引き継がれると良い
- 丁寧で適切で内面に寄り添った実態把握が必要
- わかる、できる状況作り・学習進度差への対応
- レディネスの把握、ST
- 随時見通しをもたせ、学習のポイントを示す
- 音声、視覚、具体物、ジェスチャーなどによる理解

【課題】

- 自分のスタンダードへの固執が妨げ
- 時間の経過で定着が薄れる
- 生活に汎化されない

B 2 知的障害ある生徒の教育的対応の基本

【教育的対応の基本】

- 楽しさを感じる学校
- 生徒の興味関心を優先
- 自己肯定感
- 興味関心から生活に結びつくように展開
- 信頼関係の構築
- ユニバーサルデザイン
- 日常生活を軽んじない
- 感謝の心
- 出口の教育
- 自分で判断する生徒
- 自己理解、他者理解
- 学習の意義を理解

【課題】

- できないのは教師の責任
- 物、金、人
- T.Tを機能させていない
- 実態差、出席状況 対応
- 大人が一貫した指導を
- 生活への結びつきは教科によっては難しい
- 挨拶、コミュニケーション…働く力の不足を感じる
- 社会性育成の場の理解が乏しい
- 卒業後への意識、目的、ルール、軸をしっかり

アンケートを集約して…

先生方が感じたことはこんなことでしょうか

- ・「主体的・対話的で深い学び」をやってみただけどこれでいいのかな、という感じ。
- ・主体的な学びが対話的な学び、深い学びにつながる。主体性が大切。
- ・主体性を導き出すのは、関心・意欲や必要性の実感、授業がわかること、できること。

そもそも

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善は…

- ・これまでのテストで点数を取ることが優先された受験教育
- ・知識偏重で教師が教え生徒が覚える講義的な授業
- ・問題解決力のない受け身な学生を送り出す大学教育の在り方
等への反省から出てきたもので

- 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではない。
- 優れた授業改善の等の取組に共通し、かつ普遍的な要素である。
- これまでも学習指導要領において重視してきたものであり
～中略～学習活動の質を更に改善・充実させていくための視点としてしめしている。(○3点は学習指導要領解説より出典)

(2) 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方

そこで、本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方について次のように押さえたいと思います。

- 1 これまで行ってきた学習指導を、学習指導要領に示された『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の趣旨に照らして整理し、学習活動の質を改善・充実させるものである。
- 2 生徒の実態に応じ、生徒自身の学びとなり、生徒の生活にいきる学力の育成を目指すものである。
- 3 本校における学習指導の基礎・基本として共通理解を図り、各授業の実践に反映させるものである。

北村教授のアドバイスを参考にしました

(2) 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点
「わかる・できる・いきる授業のデザイン」

わかる

- ・何をするかがわかる【学習内容】
- ・何ができるようになるかがわかる【学習目標】
- ・どのように進めるかがわかる【学習予定】
- ・何ができるようになったかがわかる【学習評価】

できる

「見方・考え方」を働かせ

- ・より深く理解することができる
- ・考えを形成することができる
- ・問題を見いだし解決することができる
- ・思いや考えを創造表現することができる

いきる

- ・次の学習にいきる
- ・日常生活にいきる
- ・社会生活にいきる
- ・他の学習にいきる
- ・心身にいきる

「わかる・できる・いきる授業のデザイン」の各項目は、『本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方』で押さえた内容を基に、単元・題材指導計画等が、生徒の実態に応じた目標や手立てになっており、生徒の「できる状況」が計画されているかを考察、確認し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための視点として、授業を組み立てる基本的な内容をまとめたものです。

(3) 次年度の取組

次年度の取組

「わかる・できる・いきる授業のデザイン」に沿った授業作りを通して、本校の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の実践を深める。

取組方法

「わかる・できる・いきる授業のデザイン」の授業について、生徒向けのガイドブック「学習の手引き」(仮称)と教師用の「学習指導デザインブック」(仮称)を対応させる形で作成し、学習活動全般に授業の基本的な形や活動の名称について教師間の共通理解を図り実践に反映させるとともに、その内容について生徒への意識付けも行う中で、生徒の主体的な学びを引き出す実践を試みる。

(3) 次年度の取組 HKS学習の手引き、HKS学習指導デザインブックについて(案)

1 作成の概要

- (1) どの学習においても共通して取り組むことで本校のスタイルとして生徒への定着を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」を引き出すことに資する内容とする。
- (2) 具体的な取組がイメージでき、実地的であるとともに、教師間及び生徒と教師が理念や考え方など共通理解ができる内容とする。
- (3) 必要だと思ったことを全部詰め込むのではなく、汎用的で覚えられて、合い言葉のように思い出して使えるような表現や分量でまとめる。
- (4) 作って終わりではなく、授業のオリエンテーションや日常の授業など、実際の授業の中で使えるように、年間指導計画などに位置づけられるようにする。

2 内容

- (1) 「HKS学習の手引き」は、生徒向けの学習への取り組み方について説明するもの。「HKS学習指導デザインブック」は教師向けに作成し、「HKS学習の手引き」の内容と具体的な指導の手立てや留意点、本校における共通理解などをまとめたもの。
- (2) 手引きとデザインブックを対応させて制作することで、生徒、教師が学習の進め方について、姿勢、考え方、ルールやマナー、基本的な手順等を共通理解でき、どの学習においても学習の進め方や各場面の学習の仕方について本校としての基本的な形がもてるようにする。
- (3) 各授業において、また授業間においての取り組み方や、言葉の使用のパターン化、共通化を図ることで、生徒の主体的な学習を引き出し、対話的で深い学びにつなげる学習支援を目指すもので、あまり肩のこらないものとしたい。

(3) 次年度の取組 (研究グループ案)

内容項目		学習ハンドブック	学習指導デザインブック	担当グループ(部署)
○校訓とこれからの時代に求められる力		校訓の示す意味を理解する	校訓と担当教科等の関連	教務
○学習の種類とねらい 教科の学習 職業、作業学習 特活・道徳 総合		各授業の意義や生活に役立つ視点を理解する	シラバス、単元・題材指導計画の作成について	教務・各教科部会
○授業の組み立てと受け方 ・学習内容 ・学習目標 ・学習予定 ・振り返り（自己評価） ・学習活動		授業の基本的な組み立てと授業を受けるポイントを理解する。	学習指導案(略案)の作成と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について理解する	教務
学習活動	話し合いの仕方	話し合いのルールとマナーについて	話し合いの方法、対話的な学びについてのポイントや技術について理解する。	国語・生徒指導部
	調べ学習	iPadの使い方、活用、管理について	ICT活用の技術向上について	情報・社会・総合担当
自立活動		自立活動の目的と自己理解と他者理解	自立活動の目標設定と学習の進め方について	自立活動担当・養護教諭
進路学習		3年間の進路学習の概要	進路決定の過程と位置付け	進路指導部・担任
ガイダンスと個別の指導計画		個別の指導計画について	個別の指導計画とガイダンスの在り方について	教務・担任

分掌と教科部会を混合した形で編成